

# 【「協働による授業づくり」の推進】

## 目次

---

● 協働による授業づくりの良さ	・・・・・・・・・・ 94
-----------------	---------------

---

● 校内研修の年間計画	・・・・・・・・・・ 95
-------------	---------------

---

● 校内研修の具体例	
（1）5分コース	・・・・・・・・・・ 96
（2）30分コース	・・・・・・・・・・ 100
（3）60分コース	・・・・・・・・・・ 102

---

● 指導体制の工夫，複数の教師による評価	・・・・・・・・・・ 104
----------------------	----------------

---

# 「協働による授業づくり」の推進



自分一人で授業づくりをしていると、「考え、議論する道徳」の授業ができていないのか、不安になります。

学校全体で**協働による授業づくり**を行うことで、教師同士が学び合うことが日常的になり、道徳科の理解の深まりや指導力の向上につながります。



## 協働による授業づくりの良さ




- 道徳科の理解の深まりや授業の質の向上につながる。
- 児童生徒の変容を複数の目で見取り、評価に対して共通認識を持つことができる。
- 指導の系統性について考えることができる。
- 異なる立場（学年、教科等）からの意見が、授業者の新たな気づきを促し、指導力が向上する。

学校全体で**共通の視点**をもって授業づくりに取り組むことが大切です。ぜひ「サポートブック」を使って、共通理解を図りながら協働による授業づくりを行ってみてください。



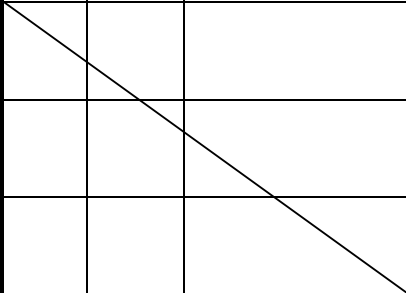


## 1 サポートブックを活用した校内研修


学校の実状に合わせて、**5分コース**、**30分コース**、**60分コース**の3種類の研修を、いろいろな組合せで行うことができます。

種類	内容	ねらい
<b>5分コース</b> 「ワンポイント研修」  p 98～101	○ 道徳科の基本的な理論等の共通理解を図る。 ○ 道徳科の用語の意味を理解する。	・年間を通して、継続して研修を行うことによって、道徳科の授業に対して意識の向上を図る。 ・理論編と演習編を組合せながら行うことによって、理論を知った上で実践に生かす。
<b>30分コース</b> 「実践ミニ研修」  p 102～103	○ 道徳科の基本的な理論等の共通理解を図る。 ○ 具体例を基に、授業構想や評価についての理解を深める。	・年度初めに検討・確認したいこと、学期の途中で確認したいことを共通理解しながら、道徳科の授業を進める。 ・「サポートブック」の内容と実際の授業を結び付けて考える。 ・学校全体の評価の捉えの統一を図る。
<b>60分コース</b> 「授業づくり研修」  p 104～105	○ 協働による授業づくりを行い、実践的指導力向上を図る。	・今後行う授業を構想したり、模擬授業を行ったりすることで授業を見る視点について共通理解を図り、授業実践力を伸ばす。

## (1) 校内研修の年間計画例

月	例1：実践力を高めたい場合			例2：道徳科の理解を実践力につなげたい場合			例3：道徳科の理解を積み上げたい場合		
	コース	研修内容		コース	研修内容		コース	研修内容	
4	30分	理論編1	「考え、議論する道徳」の実際	5分	理論編1	基本的な理論1	5分	理論編1	基本的な理論1
5	5分	理論編11	評価の基本的な考え方	5分	理論編4	教師の明確な意図	5分	理論編11	評価の基本的な考え方
6	5分	理論編3	内容項目の理解	30分	演習編1	見取りと評価の具体	5分	理論編2	基本的な理論2
<p>「基本的な理論」「評価」については年度初めに研修を行い、共通理解を基に道徳科の授業を進めていけるようにしましょう。</p> 									
7	5分	理論編10	発問づくり	5分	理論編5	学習指導過程4つのポイント	5分	理論編3	内容項目の理解
8	60分	演習編1	1時間の授業を構想する	60分	演習編1	1時間の授業を構想する	5分	理論編4	教師の明確な意図
<p>時間はかかりますが、「1時間の授業を構想する」演習はとても効果的です。ぜひ長期休業期間等に行ってみてください。</p> 									
9	5分	演習編1	自分との関わりで考えさせる展開例	5分	理論編6	学習指導過程4つのポイント	5分	理論編5	学習指導過程4つのポイント
10	5分	演習編2	多面的・多角的に考えさせる展開例	5分	理論編7	学習指導過程4つのポイント	5分	理論編6	学習指導過程4つのポイント
11	5分	演習編3	ねらいに迫るための発問を構想する	5分	理論編8	学習指導過程4つのポイント	5分	理論編7	学習指導過程4つのポイント
12	60分	演習編2	模擬授業を行う	5分	理論編9	学習指導過程4つのポイント	5分	理論編8	学習指導過程4つのポイント
1				5分	演習編1	自分との関わりで考えさせる展開例	5分	理論編9	学習指導過程4つのポイント
2				5分	演習編2	多面的・多角的に考えさせる展開例	5分	理論編10	発問づくり
3				5分	理論編10	発問づくり	5分	演習編3	ねらいに迫るための発問を構想する

理論編の研修を中心に行った次の年は、演習編を取り入れてみるなど、複数年を見通して研修を計画できるといいですね。







## (2) 校内研修の具体例

### ① 5分コース「ワンポイント研修」(打合せ・職員会議など)

#### 理論編

	研修内容	ねらいと流れ	
道徳科の基本を押さえる	<b>基本的な理論 1</b> 〈教科化の背景・道徳科の目標〉  理論 「教科化の背景」 「道徳科の目標」 p 5～7	ねらい	教科化の背景と道徳科の目標について、共通理解を図る。
		流れ	①これまでの道徳の授業を振り返り、教科化されて変わったことはどのようなことだと思えるか、意見を交換する。 ②サポートブックで、「教科化の背景」と「道徳科の目標」を確認する。
	<b>基本的な理論 2</b> 〈「考え、議論する道徳」の捉え方〉  理論 「『考え、議論する道徳』の捉え方」 p 8	ねらい	「考え、議論する道徳」の捉え方について、共通理解を図る。
		流れ	①「考え、議論する道徳」の各自の捉え方をワークシートに書き、共有する。 ②サポートブックで、「『考え、議論する道徳』の捉え方」を確認する。
明確な意図を持つ	<b>内容項目の理解</b>  授業づくりのポイント 「内容項目を理解するポイント」 p 62 内容項目集 p 10～11	ねらい	児童生徒の発達段階に応じて指導内容が異なることを押さえ、内容項目の理解を深める。
		流れ	①サポートブックで、「内容項目を理解するポイント」を確認する。 ②サポートブックの「内容項目集」で指導の要点について、確認する。
	<b>教師の明確な意図</b>  授業づくりのポイント 「教師の明確な意図」 p 66	ねらい	「明確な意図」を持つために必要な3点（内容項目の理解、児童生徒の実態把握、教材の活用）についての理解を深める。
		流れ	①道徳の授業づくりで大切だと思うことについて、意見交換をする。 ②サポートブックで、「教師の明確な意図」について、確認する。
	<b>学習指導過程 4つのポイント</b> (全体)  授業づくりのポイント 「学習指導過程4つのポイント」 p 61	ねらい	1時間の学習指導過程を構想する時に押さえておきたい4つのポイントを確認する。
		流れ	①普段の道徳の授業をどのような流れで構想しているか、意見交換をする。 ②サポートブックで、「学習指導過程4つのポイント」を確認する。

学習指導過程を構想する

理論編 6	<b>学習指導過程</b> <b>4つのポイント</b> 〈問題意識を持たせる〉  授業づくりのポイント 「導入の工夫」 p 6 8	ねらい	児童生徒が問題意識を持つための導入の工夫について、理解を深める。
		流れ	① 普段の道徳の授業の導入場面でどのような学習活動をしているか、意見交換をする。 ② サポートブックで、「導入の工夫」について、確認する。
理論編 7	<b>学習指導過程</b> <b>4つのポイント</b> 〈多面的・多角的に考えさせる〉  授業づくりのポイント 「多面的・多角的に考えさせる学習」 p 7 3～7 4	ねらい	児童生徒が多面的・多角的に考えるための工夫について、理解を深める。
		流れ	① 短めの教材を取り上げ、多面的・多角的に考えさせるために、どのような発問や学習活動ができるか、意見交換をする。 ② サポートブックで、「多面的・多角的に考えさせる学習」について、確認する。
理論編 8	<b>学習指導過程</b> <b>4つのポイント</b> 〈自分との関わりで考えさせる〉  授業づくりのポイント 「自分との関わりで考えさせる学習」 p 7 1	ねらい	児童生徒が自分との関わりで考えるための工夫について、理解を深める。
		流れ	① サポートブックで、「自分との関わりで考えさせる学習」について、確認する。 ② サポートブックの学習指導案集で発問や学習活動の例を確認する。
理論編 9	<b>学習指導過程</b> <b>4つのポイント</b> 〈自己(人間として)の生き方について考えさせる〉  授業づくりのポイント 「終末の工夫」 p 7 0	ねらい	児童生徒が自己(人間として)の生き方について考えるための終末の工夫について、理解を深める。
		流れ	① サポートブックで、「終末の工夫」について、確認する。 ② サポートブックの学習指導案集で発問や学習活動の例を確認する。
理論編 10	<b>発問づくり</b>  授業づくりのポイント 「発問づくり」 p 7 5～7 8	ねらい	授業のねらいに迫るための発問づくりについて、理解を深める。
		流れ	① 普段の道徳の授業で、どのような発問をしているか、意見交換をする。 ② サポートブックでねらいに応じた発問の例を確認する。
理論編 11	<b>評価の基本的な考え方</b>  道徳科の評価 「評価の意義」「授業構想から評価までの流れ」「見取りの方法」「見取りの工夫」 p 8 5～8 9	ねらい	道徳科の評価についての基本的な考え方と見取りの方法について、共通理解を図る。
		流れ	① 道徳科の評価をどのように行ってきたか、どのように行えばよいと思うかを、意見交換する。 ② サポートブックで、道徳科の評価の基本的な考え方と評価を行う際に押さえておきたい大きな2つの視点を確認する。

発問を工夫する

評価の基本を押さえる



## 研修会の進め方

### (例) 5分コース「ワンポイント研修」 理論編2 「基本的な理論2」

ねらい	「考え、議論する道德」の捉え方について、共通理解を図る。		
準備物	参加教師：サポートブック、筆記用具 進行役の教師：サポートブック、ワークシート		
研修の流れ	時間	活動内容	進行手順
	30秒	ねらいの確認	「道德科では『考え、議論する道德』の授業への転換が求められています。今日は、『考え、議論する道德』とはどのような授業なのか、みなさんで考えていきたいと思います。」
	4分	「考え、議論する道德」について考える	「『考え、議論する道德』とは、どういう授業だと思いますか。ワークシートに書いてみてください。」 (書く) 「書いたことを3～4人の小グループを作って共有してください。」 (話し合い) 「学年で話してみても、『やっぱりそうだよね』や『そんな考え方もあったのか』と思った考えはありましたか。今、先生方が行ったことが、道德科で言う『議論する』ということの第一歩だと思います。」 ・サポートブックの「考え、議論する道德とは」を基に説明する。
	30秒	まとめ	「これから道德の授業を行う際に、今日みなさんで考えて確認した『考え、議論する』ことを意識して進めていきましょう。」

ワークシート例

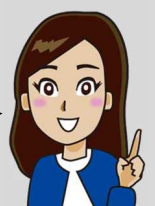
5分コース「ワンポイント研修」

**考え、議論する道德とは？**

「考え」とは？

「議論する」とは？


このような研修を継続することで、日常的に道德について話し合える雰囲気ができ、学校全体の授業力を向上させることにつながります。






## ② 30分コース「実践ミニ研修」(放課後など)

### 理論編

道徳科の基本・明確な意図・学習指導過程	研修内容	ねらいと流れ	
		ねらい	提案授業を基に、「考え、議論する道徳」の授業を構想する際に押さえておきたい理論について、共通理解を図る。
理論編 1	 理論 「教科化の背景」 「道徳科の目標」 「『考え、議論する道徳』の捉え方」 p 5～8 授業づくりのポイント 「教師の明確な意図」 p 66 「学習指導過程4つのポイント」 p 61	流れ	①サポートブックで、基本的な理論を確認する。 ②サポートブックで、明確な意図を持って授業を構想することについて確認する。 ③サポートブックで、学習指導過程を構想する際に押さえておきたいことを確認する。 ④提案授業の学習指導案と「学習指導過程4つのポイント」を照らし合わせ、実際の授業のねらいや学習指導過程、発問について具体的なイメージを持つ。

### 演習編

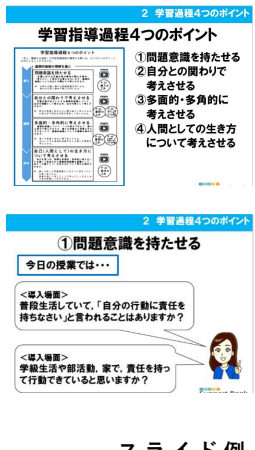
見取りを行う	研修内容	ねらいと流れ	
		ねらい	児童生徒の実際の記述を活用し、道徳科の評価の基本的な考え方を基に、見取りを体験する。
演習編 1	 道徳科の評価 「評価の意義」 p 85 「大きくくりなまとまりでの評価」 p 90～91	流れ	①サポートブックで、評価の基本的な考え方を確認する。 (児童生徒の記述のコピーを配る。) ②児童生徒の実際の記述を見て、実際に見取りを行う。「自分との関わりで考えている」部分には青線、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」部分には赤線を引く。 ③どの部分に線を引いたか、情報交換をする。 ④(可能であれば)事前に準備した評価の例を共有し、見取った情報をどのように評価につなげたらよいかを確認する。



# 研修会の進め方

## (例) 30分コース「実践ミニ研修」

### 理論編1 「『考え、議論する道徳』の実際」

ねらい	提案授業を基に「考え、議論する道徳」の大まかな学習指導過程の構想の方法について知り、授業実践に生かすことができるようにする。		
準備物	参加教師：サポートブック、提案授業の指導案 進行役の教師：PC、大型提示装置（TV、プロジェクタなど）、スライド ※事前に道徳の提案授業を全員で参観する。		
研修の流れ	時間	活動内容	進行手順
	30秒	ねらいの確認	「道徳が教科化されたばかりで、不安なこともあると思います。今日は、道徳の授業の方向性をみんなで確認し、具体的にどのように授業を構想すればよいのか提案授業を基に考えていきましょう。」
	5分	「理論」についての説明	・サポートブック「教科化の背景」「道徳科の目標」「考え、議論する道徳とは」を基に説明する。
	5分	「教師の明確な意図」についての説明	・サポートブック「教師の明確な意図」を基に説明する。
	15分	「学習指導過程4つのポイント」についての説明  スライド例	・サポートブック「学習指導過程4つのポイント」を基に、具体例を踏まえて説明する。 「ポイントの1つ目は、ねらいとする道徳的価値についての問題意識を持たせることです。主に導入の場面で、主題に対する児童生徒の興味関心を高める活動や発問を行います。児童生徒に「考えたい」と思わせ、自分との関わりで考えさせます。サポートブック68ページをご覧ください。例えば、日常生活のアンケート結果を提示すること、学校行事等の体験活動を振り返ることなどの工夫例が示されています。今日行った「〇〇〇（教材名）」の授業では、導入の場面で〇〇を想起させ、〇〇を問うことで問題意識を持たせる働きかけを行いました。 ポイントの2つ目は・・・」
4分30秒	まとめ 質疑応答	「私たち教師が明確な意図を持ち、4つのポイントを取り入れながら授業を構想していきましょう。」	

### ③ 60分コース「授業づくり研修」(放課後・長期休業など)

#### 演習編


※事前に、5分コースや30分コースの研修で、「基本的な理論」「教師の明確な意図」「学習指導過程4つのポイント」について押さえておく。

		研修内容	ねらいと流れ	
授業を構想する	演習編 1	1時間の授業を構想する	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートブックを活用して実際に授業を構想する。</li> <li>・協働による授業づくりのよさを体験する。</li> </ul>
			流れ	<p>① (研修会の1週間程度前に) 研修会で扱う教材を指定し、事前に各自で略案を作成する。 ※全体で1つの教材を扱うパターン、学年ごとに1つの教材を指定するパターンなど、学校の実態に応じて形態を工夫するとよい。</p> <p>② 3～4人のグループを作り、各自が持ち寄った略案について意見交換をする。</p> <p>③ グループで1つ、学習指導過程を構想し、略案を作成する。</p> <p>④ それぞれのグループで考えた学習指導過程について情報交換をする。</p> <p>⑤ (研修会終了後) 各グループが考えた略案を印刷し、配布する。</p>
模擬授業を行う	演習編 2	模擬授業を行う	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートブックを活用して構想した授業を体験する。</li> <li>・模擬授業で得られた成果と課題を通して、指導の改善について考える。</li> <li>・協働による授業づくりのよさを体験する。</li> </ul>
			流れ	<p>① 授業者はサポートブックを活用して授業を構想し、略案を準備する。参加教師は教材と略案を事前に読んでおく。 ※60分コース 演習編1で構想した授業を行ってもよい。</p> <p>② 模擬授業を行う。(範読は省略)(40分程度)</p> <p>③ 授業者が自評を述べる。授業構想や実際に模擬授業を行って悩んだことや困ったことがあれば挙げるようにする。(5分程度)</p> <p>④ 参加者全員で意見交換をする。授業者が悩んだことや困ったことについても触れる。(15分程度)</p> <p>⑤ 模擬授業を行ってみて、思ったことや感じたことについて、意見交換をする。</p> <p>⑥ 授業参観カードを記入し、授業者に渡す。</p>

# 研修会の進め方

## (例) 授業づくり研修【60分コース】

### 演習編 1 「1時間の授業を構想する」

ねらい	サポートブックを参考に、実際に行う授業の学習指導過程を協働で構想し、授業力向上を図る。		
準備物	参加教師：サポートブック，教材，各自で考えてきた略案 進行役の教師：ワークシート，大型提示装置（プロジェクタ，実物投影機など）		
準備	事前に研修会で扱う教材を指定し，各自で略案を作成しておく。		
研修の流れ	時間	活動内容	進行手順
	2分	ねらいと進め方の確認 	「今日は『協働による授業づくり』ということで，事前に考えてきた略案を基に，グループで1つ，学習指導過程を作成します。今から45分間，グループ活動の時間を取ります。グループの中で司会・記録・発表の係を決めて進めてください。記録係の先生はワークシートへの記入をお願いします。○時○分から，それぞれのグループで考えた学習指導過程について，発表してもらいます。お互いに学び合い，より良い学習指導過程を構想しましょう。」
	45分	グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに1枚，ワークシートを配布する。</li> <li>・（可能であれば）質問への応答や悩んでいるグループへの声掛けやアドバイスをする。</li> <li>・残り時間の声掛けをする。</li> </ul>
	10分	シェアリング	「各グループで考えた学習指導過程について，2～3分程度で発表してください。」 (グループ数に応じて，全グループまたは抽出グループに発表してもらう。発表するグループのワークシートをプロジェクタ等で提示できるとよい。)
	3分	感想発表 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加教師数人に感想を発表してもらう。</li> </ul> <p>「今日は『協働による授業づくり』ということで，実際に行う授業の学習指導過程を考えてみました。私たち教師自身が『考え，議論』しながら，授業づくりができたのではないのでしょうか。今日考えた学習指導過程をぜひ実践して，手応えや感想を共有することで授業力向上を図っていければと思います。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（研修会終了後） 各グループで考えた学習指導過程を印刷・配布する。</li> </ul>

## 2 指導体制の工夫

道徳科は、主として児童生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めることが望ましいとされていますが、学校の道徳教育の目標の達成に向けて、学校や学年として一体的に進めるものでなくてはなりません。そのために、全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切です。

### 指導体制の工夫例

- 校長や教頭などの参加による指導。
- 他の教職員とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導。
- 校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導。
- 年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う取組。

### 道徳科の授業を実施しやすい環境を整えること

- 校長の方針の下に、道徳科で用いる教材や図書の準備・掲示物の充実・教材コーナーの整備などを分担して進められるように、道徳教育推進教師が呼び掛けをしたり、具体的な作業の場を設定したりする。

### 指導力向上のために

- 全教師が、道徳科の学習指導案の作成や提案授業を少なくとも年に1回は担当して授業を公開するなど、学校全体で積極的に指導力向上に取り組むことが望まれている。

## 3 複数の教師による評価

学級担任以外からの児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について意見や所感を得るなどして、学級担任が児童生徒を多面的・多角的に評価したり、教師自身の評価に関わる力量を高めたりすることも大切です。

### 他の教師と協力的に授業を行うこと

- 他の教師と協力的に授業を行うことで、児童生徒の変容を複数の目で見取ったり、評価に対しての共通認識を持ったりする機会となる。学級担任が普段の授業とは違う角度から児童生徒の新たな一面を発見することもできる。

### 他の教師による授業に対する評価

- 道徳科の授業を公開して、参観した教師から助言を受けたり、チーム・ティーチングの協力者などから評価を得たりする機会も重要である。その際、あらかじめ重点とする評価項目を設けておくと、具体的なフィードバックが得られやすい。

### 参考文献

- |     |                            |                |             |
|-----|----------------------------|----------------|-------------|
| [1] | 文部科学省：小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 | P87-88,113,116 | あかつき        |
| [2] | 文部科学省：中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 | P86-87,115,118 | 教育出版        |
| [3] | 協働による授業づくりで目指したいもの 2019年   |                | 宮城県気仙沼教育事務所 |